

## いろいろな体験教室

参加費無料

### ● 縄文アクセサリー作り教室

縄文人が身に着けていた勾玉や耳飾りを参考に、滑石という軟らかい石をけずって、オリジナルの縄文アクセサリーを作ります。石は磨けば磨くほどきれいに光ります。



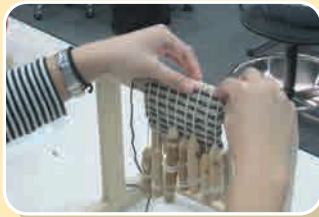
### ● 縄文土器作り教室



発掘された土器を手本に縄文土器作り。2日間かけて製作し（親子教室の製作は1日）、約1ヶ月乾燥させた後、遺跡庭園内で野焼きを行います。

### ● 古代の布作り教室

編布編みは、縄文時代から受け継がれてきた布を編む技法。体験教室では、天然の麻繊維とオリジナルの作業台を使って、古代に編まれた布を作ります。



### ● 縄文食体験



縄文土器できのこ汁を煮たり、縄文人の主食であったドングリでクッキーを焼いたり秋の味覚いっぱい縄文食を体験。

### ● トンボ玉作り教室

日本のガラス玉製作の歴史は弥生時代に始まります。ガラスの棒を溶かして、模様をつけ、オリジナルのトンボ玉を作ります。



このほかにも季節ごとに様々な体験教室を開催しています。詳しい内容や日程、申込み方法などは、案内チラシまたはホームページをご覧ください。電話でお問い合わせください。

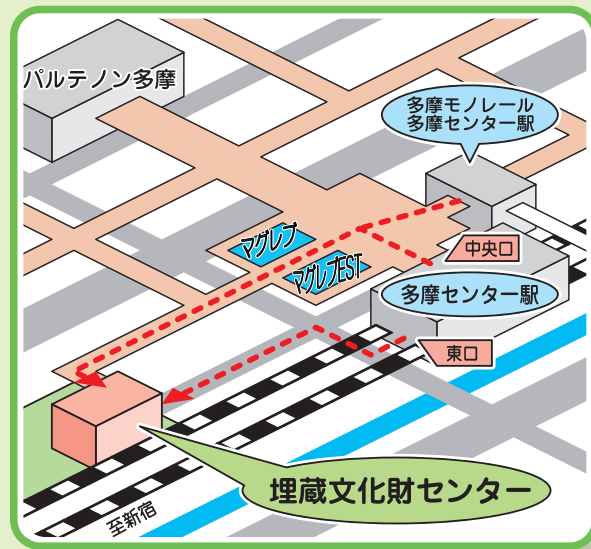
## 利用案内

開館時間 9:30~17:00 ※  
※ただし「縄文の村」は11月から2月まで16:30閉園

休館日  
・年末年始（12月29日～1月3日）  
・展示替えの臨時休館期間（3月初旬から中旬）

入館料 無料

アクセス  
・京王相模原線「京王多摩センター」駅より徒歩5分  
・小田急多摩線「小田急多摩センター」駅より徒歩5分  
・多摩都市モノレール「多摩センター」駅より徒歩7分



連絡先  
指定管理者  
(公財)東京都スポーツ文化事業団  
**東京都埋蔵文化財センター**  
Tokyo Metropolitan Archeological Center  
〒206-0033 東京都多摩市落合1-14-2  
TEL 042-373-5296 FAX 042-374-2161

<https://www.tef.or.jp/maibun/> 東京都埋蔵文化財センター

縄

文

の

風

に

の

つ

て

## 多摩ニュータウン遺跡群

稲城・多摩・八王子・町田の四市にまたがる、東西14km、南北2~4km、総面積3,000haという広大な面積を有する多摩ニュータウン地域。その丘陵内に約1,000ヶ所の遺跡が点在しています。

東京都埋蔵文化財センターでは、1966（昭和41）年より40年間かけて、290ha、770ヶ所の遺跡を発掘調査してきました。

展示ホールには、この多摩ニュータウン遺跡から出土した縄文土器などが数多く展示されており、いつでも自由に見学できます。



## 展示の見学



 **東京都立埋蔵文化財調査センター**  
Tokyo Metropolitan Archeological Research Center

## 遺跡庭園「縄文の村」

遺跡庭園「縄文の村」は、1987(昭和62)年、多摩ニュータウンNo.57遺跡を保存する目的で整備されました。No.57遺跡は縄文時代の集落跡で、前期の住居跡2軒、中期の住居跡5軒のほか、落とし穴などが発掘され、南側の半分については現状のまま盛り土をして保存されています。

「縄文の村」に復元された3棟の住居内では、防虫・防腐をかねて日替わりで火焚きが行われており、運がよければ実際の火焚きが見学できます。このほか園内には、発掘時の状況を再現した住居跡の模型や、湧水などもあわせて再現し、「縄文の村」の景観を体感することができます。

### A しきいし 敷石住居 (4,500年前)



八王子市堀之内のNo.796遺跡で発見された住居を移築したものです。床に大きく平たい石が敷かれていることから、敷石住居と呼ばれており、およそ4,500年前の多摩地域の住居の特徴をよく示しています。床面積は約7㎡と少し小さめです。



### B たてあな 前期の竪穴住居 (6,500年前)



発掘調査当時の位置に復元された住居です。床の形が長辺7m、短辺4.5mの長方形で、面積は約30㎡とかなり広くなっており、5~6人くらいは十分に住めそうです。

住居の棟の上には、屋根がうき上がりにならないように土で押さえさらにヒバなどの草が植えられています。

### C てつとう 中期の竪穴住居 (5,000年前)



鉄塔の東側に発見された住居をモデルに復元した住居です。壁沿いの5本の柱で屋根が支えられており、床は長径5m、短径4mの楕円形で、面積約15㎡は縄文時代中期の標準的な大きさを示しています。

### E わきみず 湧水



北斜面の小さな谷に湧水をためる小さな水場がつくられています。現在は水脈が切れて湧水はみられません。かつてはどんな日照りのときでもかれることはなかったようで、きっと縄文人もこの水を利用していたのでしょう。

### D 竪穴住居の模型



発掘調査後の住居跡に盛り土をして、発見当時の竪穴住居2軒分の様子を模型で再現しました。中央には炉があり、まわりの柱が立っていたと思われるところには実際に短い柱を建ててみました。

### 縄文の森

遺跡庭園内には、5,000年前の縄文の村の周囲に生えていた樹木や野草を50種類以上植え、当時の森を忠実に再現しています。

当時この地域には、クヌギ、コナラ、トチノキ、クリ、クルミといった温帯落葉広葉樹を中心に、広葉樹や針葉樹を交えた豊かな森が広がっていたと推定されています。

この縄文の森は、当時の人々にとって日々の食料を得るための場所であると同時に、道具や住居の材料をえるための場所でもあり、生活に密着した大切な森であったといえます。



現在は、この縄文の森の下で、火おこし体験や縄文土器の野焼き、縄文食体験などを行っています。

